

北九州市立大学・地域創生学群の情報が掲載！

机の上じゃ学べなかったこと
ここにあった。



地域に飛び込み、
"未来"をつくる

この度は、「地創新聞VOL.3.2」を手にとっていただき、ありがとうございます！

本誌は、北九州市立大学 地域創生学群の活動の一環として広報実習が発行したものです。地域創生学群には12の実習があり、今年度はそれぞれの実習がどのように地域の方々と関わっているのかを取材しました。今回は、地域の皆さまにも参加していただけるイベントに焦点を当てています。この新聞をきっかけに、地域創生学群や地域での取り組みに少しでも興味を持っていただければ幸いです。

2回目の発行となる「地創新聞VOL.3.2」の表紙は、北九州市の由緒ある小倉城を取り上げました。小倉城は、お城を保存しているだけでなく、日本で1番楽しいお城を目指しています。小倉城ならではの体験や、周辺施設にも様々な工夫があるので、ぜひ一度行ってみてください！

この新聞では、北九州市で活躍する学生の活動をお届けしながら、観光スポットも紹介していきます。

今年度も多くの方のご協力のもと、無事に「地創新聞」を発行することができたこと心よりお礼申し上げます。

広報実習

【地域創生学群とは】

地域に関する理論と現場理解により地域社会をマネジメントし、地域の再生と創造に貢献できる人材を育成することを理念とし、総合的な人間力を培い、地域社会のさまざまな分野で指導的役割を担える人材の養成を目指しています。

地域社会というリアルな現場は、企業や行政機関のみならず、市民活動や障がいスポーツ、福祉等の分野において、指導的あるいはコーディネーター的役割を担える能力を養うことに重点を置いている学部です。

もっと地域創生学群を知りたくなりましたか？
ぜひ左右のQRコードを読み込んでみてください！



心も地域も酔う、恋する猪倉！

＼猪倉実習／

農業を通じてまちづくりを行う猪倉実習。私たちは活動の一つである芋焼酎プロジェクト（以下、芋焼酎PJ）の取材をさせていただきました。現場で感じた猪倉実習の活動の魅力や、地域の方の温かさなどをご紹介します！

【猪倉実習とは？】

猪倉実習は北九州市八幡東区にある高槻・猪倉地域を拠点とし、農業をベースとした地域活性化を目指した活動を行う実習です。週末には猪倉サテライトに宿泊する宿泊作業や、高槻地域の買物難民支援として一人暮らし高齢者の見回り訪問を行います。また収穫した芋を加工し、生産・販売までを行う芋焼酎PJなど地域の方や団体、企業の方と連携して活動しています。

一大イベント芋収穫

5月上旬に植え付けをした芋焼酎用のサツマイモを10月に収穫します！この芋焼酎PJ、地域愛醸成と地域ブランドの確立を目的に「生産・加工・販売」に取り組むプロジェクトです。本年度は「地域の方やまちづくり協議会の方、酒造の方を呼び込み、成果の共有や作業を行いたい」という意図があり、歴代の先輩の想いや、努力を受け継ぎながら進めています。

運営も関わるほたる祭り

毎年開催されている「ほたる祭り」では、学生は運営で司会進行を務めたり、子供たちと一緒におみこしを担いで地域を周回したりと、お祭りを盛り上げています。また猪倉実習でブランド化している芋焼酎「ほたるの里」や今年で2年目の「感謝の梅酒『いのくら』」も販売しています。今では地域の方から頼られる存在になっています。



←学生が出し物としてダンスを披露！可愛らしいダンスに観覧席がとても盛り上がりました！（ほたる祭りにて）

この日は朝から収穫が始まり、地域の方々や元猪倉実習の学生と協力しながら予定より早く収穫できました。例年より今年は猪の被害が少なく豊作だったそうです！収穫中では適度に休憩を取り、地域の方や学生同士との会話を楽しむ姿も！先輩と後輩の距離が近く、仲の良さが農業を通して伝わってきました！

（芋収穫にて）



↑芋収穫の休憩の様子



↑収穫後の集合写真

この実習で身に付くこと！

- ・地域の方とのコミュニケーション力
- ・肉体的、精神的な強さ！
- ・答えのない地域課題に向き合う力！

Q.猪倉実習で学んだことは？

A. 地域密着型ということもあり、猪倉実習と地域をつなぐためには、少し地域に顔を出すなど一見地道なことに思えることを続けることでその積み上げが結果的に地域とつなぐために必要なことだと学びました。（猪倉実習学生リーダーより）

Q.猪倉実習を通して大変なことは？

A. 実習全体のまとまりを保つことです。猪倉実習には5つの班があり、班ごとの活動もあったため、全体の動きをメンバーのみんなが把握し、まとまりをもって活動することが大変でした。

（猪倉実習学生副リーダーより）

各種地創の情報はこちらから



猪倉の学び
を詳しく
発信中！



猪倉実習の
インスタも
チェック！

笑顔と学びの両立 ATB活動！

＼CSW実習／

地域創生学群では地域福祉も学べることを知っていますか？この記事では地域福祉実習（CSW実習）の活動であるATB活動について触れながら実習での学びをご紹介します。

是非隅々まで読んで、CSW実習の魅力を感じてほしいです！！

（CSW実習とは？）

CSW(コミュニティソーシャルワーク)実習では地域のコミュニティづくりを目標とし、子どもから高齢者までの幅広い世代を対象としたイベントを企画、運営しています。内容としては子どもの居場所づくりを目的としたATB活動や高齢者の交流の場を提供するためのバザーなどがあり、年間を通して様々な活動を行っています。

一大イベント！ATB活動

ATBとは「遊ぼう、食べよう、勉強しよう」の頭文字をとりできた活動です。ATB活動は子どもの欠食・孤食防止や居場所づくりといった趣旨で行われ、学生自らがイベントの企画から運営までを行います。イベント当日までに何度も打ち合わせやリハーサルを重ねることから実習の一大イベントといえます。

得るものがいっぱい！ 準備も当日も

ATB活動では上記でも述べたように企画から運営までを学生自らが担います。準備期間では学生がより良いものにしようと意見を出し合い、この過程で発言力や主体性が身に付いていました。当日はメンバー不在などのトラブルが発生することもありましたが、その際にはどのように補うかを考えながら1人ひとりが自発的に動くことが求められていました。

ATB活動の3日間は天気にも恵まれ、沢山の小学生たちが来ていました。活動の中では学生が積極的に一人で行くなどし、誰一人取り残すことなくみんなで楽しむことができました。活動後には別れを惜しむ声や「楽しかった」という声が子どもたちから沢山聞こえ、学生たちも嬉しそうな様子でした！



↑理想のまちを工作中



↑お仕事体験（宅急便）

この実習で身につくこと！

- ・ イベント企画力や運営力
- ・ 子どもたちとの接し方
- ・ 瞬時な対応力、適応力

Q.イベントを行う上で大変だったことは？

A.特に印象的だったことはイベントのワークを考えることでした。参加者が1年生から6年生までと幅広いので、みんなが楽しめる遊びは何かと考えることには苦労しました。(ATB活動リーダーより)

Q.今回のイベントで感じたことは？

A.ATB活動の目的に対して広報が特定の小学校だけになっており、地域の子どもたちへのアプローチが今後の課題だと感じました。
(ATB活動リーダーより)



←ATB活動リハーサルの様子！いろいろな状況を考え、それぞれが改善案などを出し合いより良いものにしていきます。

各種地創の情報はこちらから



CSWの学び
を詳しく
発信中！



CSW実習の
最新情報を
発信中！

遊びから学びへ ESDへの第一歩

ESDプロモート実習 /

子どもたちが楽しみながら、遊びを通して学びにつなげた第52回ESDツキイチの集い。「楽しさ」を前面に出した新しい形で開催された背景には様々な工夫が凝らされていました。今回は運営の裏側と、イベントに込められた思いを取材しました。

【ESDプロモート実習とは？】

あらゆる世代に向けたESD・SDGsの周知と実践活動の推進(プロモート)を行い、持続可能な社会の創り手を創出し、学びを促進することをゴールに活動している実習です。主な活動としては遊びを通してSDGsを学ぶ「ESDツキイチの集い」があります。持続可能な社会の実現に向け、多様な人々とともに、考え・学び・実践を重ねています。

遊びの中から見つける 未来のヒント

第52回ESDツキイチの集いでは、小学生と高校生を対象に、遊びや運動を通じてESD・SDGsを身近に感じられる体験型イベントが行われました。参加者は環境を破壊するモンスター"エコロリアン"から逃げながらSDGsミッションに挑戦します。楽しむことで、ESDやSDGsに対するハードルを下げるだけでなく、健康意識の向上や課題解決能力の習得を目指しました。

協力で乗り越えた初挑戦

今回のツキイチでは参加者に楽しんでもらうことはもちろん学生自身が楽しむことも大切に運営が行われていました。初のモノレール全駅での広報が実現し、普段応募の少なかった小学校からも参加者を募ることに成功。定員を超える応募の調節には時間がかかりましたが、メンバー同士で協力しながら柔軟に対応していました。



←初めて実現したモノレール全駅での広告掲示を確認している様子。ポスターを目にしたという方もいるのではないのでしょうか？

当日は北九大を舞台に、子供たちがエコロリアンから逃げながら、様々なミッションに挑戦。ミッションではごみの分別を行うことで遊びながらも学びを深めることができるよう工夫されていました。また、開催時期が夏だったこともあり、こまめな水分補給や休憩の呼びかけの徹底も行われていました。



↑イベント説明の様子



↑ミッションはごみの分別！

この実習で身に付くこと！

- 企画力
- 柔軟な発想力、創造力
- チームワーク、協働力

Q.どんな学びがありましたか？

A. 今回初めて遊びをメインにしたことで、ESDやSDGsに対してハードルを下げることができました。遊びを通して学びに直結しなくても「まずは関心をもつ」という第一歩を作ることの大切さを学びました。(7月ツキイチ副リーダーより)

Q.活動する中で大変だったことは？

A. イベント前日に保険会社の変更があり、直前まで内容や流れを調整したり、定員を超える応募への対応をしたりと大変でしたが、メンバー同士で協力しながら柔軟に対応することで乗り越えることができました。(7月ツキイチリーダーより)

各種地創の情報はこちらから



ESDの学び
を詳しく
発信中！



ESDの情報を
リアルタイム
で発信中！